

保育おおさか

No. 437

平成 24 年 1 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪市中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

<http://www.ans.co.jp/u/osakahoiku/>

あけまして



おめでとうございます



写真：うちこし保育園、きたじま保育園、まこと小路保育園、三ツ島保育園、智島保育園、北栄本保育園（順不同）

子どもたちの最善の利益のために 福祉に携わる者の根本見つめなおす



保育部会長 永野 治男

昨年は、東日本大震災をはじめ多くの自然災害が発生しました。被災者の皆さまが一日も早く、平穏な日常を取り戻せることを心から願うとともに、微力ながら今年も支援活動を続けていきたいと考えています。

一人ひとりの力は小さくとも、皆の気持ちが合わされば、大きな力となり、それが復興への近道になると信じています。被災された方へ思いをやる―福祉に携わる我々にとっての根本を改めて認識させられた方も多いのではないのでしょうか。

「子ども・子育て新システム」もいよいよ大詰め。自民党政権下から多くの議論を経て、どうにか中間とりまとめまで辿り着いたものの、蓋を開ければ驚く内容

果は、橋下氏率いる大阪維新の会がダブル当選。今後、どのように我々を引っ張ってくれるのか。誰が大阪のリーダーになるのが、子どもたちの最善の利益を考え、行動していくのみです。

に。幼稚園の私学助成存続や保育所の一般財源化再浮上など、当初目指したもののから大きく乖離しています。何のために、何を目指していたのか。昨年から危惧していたことが違った意味で実現せぬよう、今後も注視していきたいものです。

年頭から気忙しくなりそうですが、1年の始まり、身を引き締めていきたいと思っています。旧年中はたいへんお世話になりました。皆さまには、幸多き年となりますようお祈り申しあげますとともに、本年も引き続き皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

保育士と子どもたちの幸せのために 専門性と資質の向上とさらなる研鑽を

保育士会会長 高田テルミ



新年明けましておめでとうございます。

園長先生方のご理解とご協力で多くの保育士をはじめ関係者に関わっていただ

き、今年度保育士会の事業も順調に進んでいます。残り3カ月は次年度に向け、保育士のためのみならず、子どもたちの幸せのために、研修会などの企画に努めて参ります。

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、未曾有の被害を経験し、多くの悲

「子育て支援日本」の 実現めざして

大阪府子ども室室長 里中 亨

謹んで新年のお慶びを申しあげます。

大阪府社会福祉協議会保育部会の皆様方には、本府保育行政のみならず、児童福祉行政全般の推進に御協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

子どもは次代を担う社会の宝。子どもたちが社会全体で温かく見守られ、健や

しみと苦悩をしいられしました。そんな中、被災地での

子どもの命を守った保育者の行動を耳にすると、改めて専門職としての意識の高さを感じるとともに、高い専門性を持った支援のあり方について考えさせられました。

地域貢献としてのスマイルサポーターの増員も期待されています。保育の資質向上はもとより、地域に根ざした研鑽も保育士に求められています。本会としても多岐にわたる研修会

かに、心豊かに成長できることが重要です。

子育てに関する新たな支え合いの仕組みの構築に向けた「子ども・子育て新システム」に関するさまざまな議論が本格化しています。大阪府では、市町村や保育に携わる皆様方の御意見を踏まえ、国に対して必要な働きかけを行ってまいります。

大阪府「こども・未来プラン後期計画」に基づき、保育や社会全体で子どもたちと家庭を支えるための取り組みの充実など、「子育てを企画する必要がある」と感じるところです。

混沌とする「子ども・子育て新システム」も終盤を迎え、法令化されることと思いますが、「子どもありき」の策でありますよう、私たちの声が届く結果になることをくれぐれも願っています。

今年も、子どもの笑顔と保育士の笑顔溢れる一年であることを祈ります。ご指導・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

支援日本」の実現に向けて進めてまいりますので、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

量的拡大と質確保へ 保育部会と連携して

大阪府子育て支援課長 福山 喜彦

新年おめでとうございませう。

大阪府では、「子ども・子育て新システム」の動向も見守りながら、「こども・未来プラン後期計画」に基づき、市町村と連携して保育所の整備を進めております。

平成24年3月末までに新設34カ所、増改築等25カ所の整備を見込んでおり、今後とも保育の量的拡大と質の確保のために、保育部会の皆様方と手を携えて努力してまいります。ご支援、ご協力をお願いいたします。

本年が皆様方にとって実り多い年となりますことを祈念いたします。



ブロック長からの年賀状



良質な育成環境をすべての子どもに

北摂ブロック保育部会 武内 慎吾

「子ども・子育て新システム」も、幼稚園の私学助成問題など、基本制度案から今日までの議論を覆すような、突拍子もない問題がここにきて展開しています。良質な育成環境を保障

ますます重要な行政へのはたらきかけ

北大阪ブロック会 東口 房正

年頭にあたりご挨拶申しあげます。昨年来の幼保一体化の進捗状況が妙な形で揺れ動き、政策実現のために結果ありきで進められてきたことが、歪みをもたらし、混乱を極めており

子どもたちに私たちが今できることを

河内ブロック会 高山 昌弘

新年を迎えても、なぜか晴れやかな気持ちになれないのは私だけでしょうか。昨年、東北地方を襲った未曾有の大災害、未だ被害の拡大を続ける福島原発事故：政府、東電などによ

にし、社会に誇れる事業へと、諸先輩方が尽力されたものです。

混沌とする社会情勢の中でこそ、その意志を引き継ぎ、思いを一つにして、新しい時代を切り開いていかねばなりません。本年もよろしくお願い致します。

全国に先駆けて行われそうな布陣ができあがりしました。各市への働きかけが、権限移譲も含め重要になると思われます。

皆様方におかれましては情勢を注視いただくとともに、不穏な動きが起こつた際には、ご協力とご支援を賜りますようお願い申しあげる次第です。

きるの子どもたちです。少しでも暮らしやすい社会が実現できるように、今に生きる私たちが、それぞれの持ち場で努力することが、大切ではないでしょうか。

河内ブロックの仲間も、微力ながら、尽くしてまいる所存です。本年もよろしくお願い致します。

元気いっぱい、交流の輪を拡げたい

南大阪ブロック民間保育園連盟 中島 一

昨年は、ツイッターなどを通して情報や交流を拡げることができました。大阪府知事・市長のダブル選挙では、候補者の生の声にふれることができ、選挙を身近に感じました。

私たちこそ市民に最も必要な保育所

堺市民間保育園連盟 池尾 弘久

昨年は、幼保一体化に向け、子ども・子育てシステム会議を進め、協議をしてきました。しかし突然、協議の議題になつていない話が報道されるなど、迷走が続いていま

地域に貢献できる体制をさらに整える

泉州民間保育園協議会 田中 正清

昨年の干支はうさぎでした。うさぎのイメージと異なり、東日本大震災など自然災害が多く、波乱の一年でした。

災害時にいつも思うのは、地域の防災力すなわち人々の絆、地域の絆が

「ビス」について、その功罪が何かと言われていますが、公私両面で、上手く活用していきたいものです。活発にブロック活動を進めていただいている保育士会の先生方を中心に、元気いっぱい頑張つてまいります。本年もよろしくお願い致します。

保育所が必要な保育所であることを証明していきたいと考えています。

私たちの仕事は、社会に必要とされています。国の制度が変わっても、保育所から援助を必要とする乳幼児はなくなりません。今年も、地域の子どものための健やかな成長に協力をしてまいります。

「子ども・子育て新システム」も、着実に法制化に向けて進んでおり、「新会計基準」の導入と併せて、一般企業の参入が進むことも予想されます。今後とも十分に注視していかねければなりません。今年は辰年。龍が天に昇るごとく、皆様にとつて飛躍の年となるよう願っております。

子育ては家族みんなで 祖父母・地域と一緒に

職員研修で「本音の保育」
こころのつながり、信頼きずく

八尾市

若竹保育園



芝生の園庭で
おやつをモグモグ



園長先生による育児講座

「子育ては家族みんなで、
祖父母も一緒に」の考えの
もと、保護者参加のイベン
トでは、園児の祖父母も楽
しめるような内容に工夫し
ているそうです。

(編集委員 C・T)

社 会福祉法人若竹福
祉会若竹保育園は、
0～2歳児の定員60人の保
育園です。

八尾空港が隣接し、毎日
間近に飛び交うセスナ機や
ヘリコプターを子どもたち
は楽しみにしているそうで
す。門をくぐってすぐ目に入
るのはきれいな緑の芝
生。そして沢山のテンプル
と椅子、色とりどりの遊具
です。遊びだけではなく、昼
食やおやつなどにも活用し
ています。子どもたちが落
ちついて過ごせるように、
環境づくりに努力をされて
います。

「本音の保育」を実践するた
めには、保護者と保育士の
間に信頼関係がなければな
らない。保育士はプロとし
てそれだけの力をつける必
要がある。園長先生は力強
く話します。そのために研
修には特に力を入れておら
れます。内部研修では、園
長先生自らが指導されてい
ます。主任の先生は、「園
長先生は沢山の研修に参加
し、常に情報把握と研鑽に
努力されている」と話され
ていました。

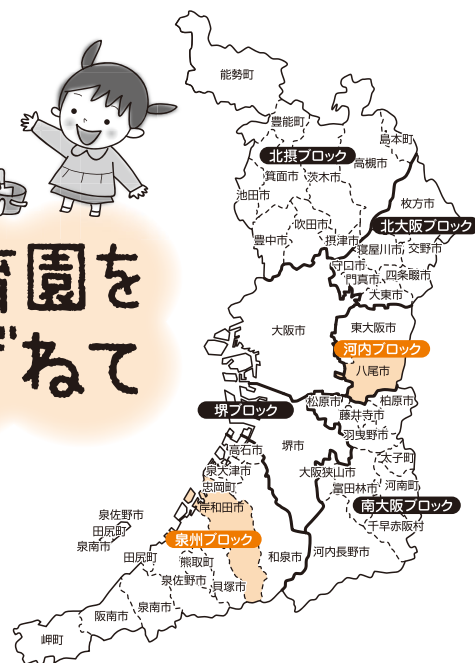
保育士が自らすすんで参
加する外部研修も、毎回参加
希望が多く、参加を決めるの
に苦労されているそうです。

このような努力の結果、
保護者と保育士との信頼関
係が目に見えるようにな
り、お互いの協働によつて
園が一つにまとまっている
ことを強く感じました。



保育園を
たずねて

441



全な心身」と「基本的な生
活習慣」を育成するという
法人の理念に基づき、
①強い心を持った子ども
②何事に対しても粘り強
く、最後まで頑張る子ど
も
③優しい心を持った子ども
④豊かな経験
⑤礼儀正しさ
を目標に保育をされていま
す。

ひびく子どもらの元気な声
楽しみに新園舎の完成待つ

公立の良さを残しつつ保育に工夫
健全な心身と基本的生活習慣育む

岸和田市 ピーブル大芝チャイルドスクール

岸 和田市の北部に位
置するピープル大
芝チャイルドスクー
ルは、社会福祉法人
光生会が運営する同
市2園目の民営化保
育所です。昨年4月
の民営化に伴い、公
立の良さを残しなが
らも、民間園の良さ
も取り入れておられ
ます。法人の姉妹園
とは少し異なる独
自の雰囲気の中で、
日々の保育を工夫さ
れています。



何が出てくるのかな？ 楽しみ！

今年のお祭りは終わしま
したが、岸和田市を舞台と
したNHK連続テレビ小説
『カーネーション』が放映
されていることも影響して
か、子どもたちは元気がい
っぱいグラウンドで楽しそう
に太鼓を叩き、「ソーリヤ、
ソーリヤ」の掛け声に合
せてミニだんじりを曳いて
いるそうです。近くには、
テレビでも撮影された「弥
栄神社」があります。

昭和48年に建設された伝
統ある現在の園舎ですが、
耐震構造の上でも、設備な
どにたくさんの問題があ
り、補修や修理に迫られる
ことがあるとか。平成24年
3月末の完成予定で新園舎
を建設中です。日々変化する
工事の進行を見るのが、
子どもたちはもちろん、保
護者や職員の皆さんの楽し
みになっているそうです。

(編集委員 A・N)



0歳児の様子

人は一人では生きていけない—社会的・文化的動物である人間の存在意義を如実に表したシンプルで重みある言葉ですが、誰と生きることを言うのでしょうか。自身の周りに広がる友人や同僚、ご近所であり、過去・未来に脈々と続く先祖や子孫たちです。人と人と

大切なのは「きっかけ」



● コミュニティを考える ●

保育園版 コミュニティづくり

— はびきのし 羽曳野市 高屋保育園 —

のつながりが、横軸と縦軸に重なり合って、一つの社会が形成されます。そこに笑顔があふれ、「コミュニティ」が完成するのではないのでしょうか。

保護者同士の 関係づくり

当園では、保護者同士がお互いを知り、子育てやさまざまな悩みを相談し合い、子どもの成長を共に喜び合う—そんな関係づくりを目指しています。

保護者の仕事により、登園・降園の時間はさまざまで、保護者同士が交流を図る機会は意外と少ないことから「親子交流会」を企画しました。新入園の方が多

い4月に、0〜2歳児は園内で、3〜5歳児は近くの河川敷公園で開催しています。今年実施の一例を紹介します。

0歳児の様子

10時。クラスに親子が集合。カラーガムテープの名札を胸元に貼り、円になって座ります。

朝の挨拶のあと、普段の保育と同じく、生活の歌「おはようのうた」「チューリップ」「ちようちよ」を歌います。振り付けしながら、保護者にも参加してもらいます。この時期の0歳児は少数のため、とても穏やかな雰囲気です。交流会がスタート。写真やペープサートを使って一日の保育の流れを紹介します。例えばおむつなどへの記名や連絡掲示板の確認なども寸劇を使ってお願いをします。

次に「グルグルインタビュー」。一つの質問に対し、一人ずつ順番に答えていく自己紹介方法です。自分の順番が回ってくるという適度な緊張感があり、連帯感が生まれ、すぐに仲良しになります。

「生まれた時のエピソード」「名前の由来」「子育てで大変なこと」などを質問します。2つ目の質問が始まる頃には、互いに興味を持ち、共感し、大変な盛り上がりよう。「グルグルインタビュー」は10人以上が最適。1、2歳児では人数が多いため、質問の内容を簡単なものにするなどの工夫が必要です。

10時40分。すっかり名前と顔が一致したところで、次はふれあい遊び。「一本橋こちよこちよ」の歌に合わせて、子どもを寝転ばせ、親子が互いの目を見ながら遊ぶことで親子の信頼関係が生まれます。続いて「おつかいありさん」の曲に合わせて、簡単な運動（ダンス）を楽しみます。

10時50分。布製ボールで遊びながら、保護者同士の会話が弾むように配慮します。11時終了。

3〜5歳児の 様子

3・4・5歳児は合同で行います。名札用のカラーガムテープも、住んでいる地域ごとに色分け。地域ご

とのチームで、ゲームに参加してもらいます。近くの河川敷公園が会場で、現地集合。

9時40分。新入園の方に自己紹介をしていただいた後、バレーン遊びをします。運動会で使われるカラフルなお遊戯用の丸い布製のものです。子どものお遊戯で観覧することはあっても、保護者自身が自分で演じることはめったにないため、とても好評な遊びです。

10時05分。運動会の恒例種目「台風の目」で遊びます。10時25分。「〇×クイズ」。地域に根ざしたクイズで、優勝家族には景品が授与されます。

11時。フォークダンス「ホーキポーキ」。とても簡単なダンスで、手と手を取り合い、1コーラスが終わるごとに、隣の人と交代するので、多くの人とダンスが楽しめます。



バレーン遊び♪



親子で楽しくフォークダンス

誤字訂正とお詫び

前号「保育おおさかNo.436」に誤字がありました。次の通り訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

・1ページ 秋の叙熱

(誤)「西山 梢 森口中央保育園 園長」

(正)「西山 梢 守口中央保育園 園長」

1時間ほどの交流会ですが、「きっかけを与えていただいて、とてもありがたかった」と好評です。0歳児から入園すると、6年間も通い続けることになる保育園です。小さな「コミュニティ」ですが、これがきっかけで「地域のコミュニティ」としてつながっていったら欲しいと願います。

(高屋保育園N・M)

北摂

造形表現の芽を育てる

―北摂ブロック研修会

平成23年11月16日、奥美佐子氏（神戸松蔭女子学院大学人間科学部 子ども発達学科教授）を講師にお迎えし、「造形表現の芽を育てる」と題して研修会が行われました。

奥氏は、「もの」に関わり「もの」を変化させる造形は、目的がはっきりして使うものを作ること。小さな子どもがティッシュや新聞紙を丸めたりすることも造形であり、0歳児のする行動が造形につながっていることを説明されました。

造形活動を通して、感性・表現力・イメージ・創造力・主体性・集中力・持続力・判断力・人間関係構築力が

育ちます。自分にしかできないため、主体性も育ちます。絵が苦手な子どもでも、描き続けることで描けるようになることなどをお聞きしました。



熱心に講義を聴く参加者

子どもの発達にも大いに関係する絵を描くことは、子どもの見ている物、その表現の仕方を見ることができ

ることに「なつた」と。地域による市議会へのアプローチの一つの指針に。今後、監査も市町村に移管になる。時世、地元市議会は大切に。

12月9日、全園長が市議会健康して反対を表明し、行政当局に申し入れたが、市長までも「待機児解消が第一として...」。これで収まる訳はない。即、市議会各会派に陳情。

時節柄、地元市議会は大切に



大鍋で大根焼きイベントはどや

康福祉委員会の傍聴に押し掛け、議員の発言に注目。ある野党議員の呟きで、「私が当選した時から、全議員を対象に懇談会を持つてくれる団体は民保連だけだから、今日は全会派から質問

芯までしみこんだおでんの大根！煮干昆布ベースに鶏ガラ・牛スジスープをブレンド、調味料は薄口醤油に色付け濃口を少し。前日に仕込んで味付け、翌朝また一煮、夕方には芯までし

と湯気立ち昇らせる光景は、想像しただけでも、「おいしい酒や！」の世界。横で手作りペーコンでも焼いたら、んーん、余りようさん来たアカンで。

(H・N)



奥 美佐子氏

きること、造形活動は自己表現であり、コミュニケーションツールでもあることも教えられました。日々の生活が造形につながることを知り、私たち保育者は、「ねらい」「目的」を持って保育をプランし、子どもが日常的に興味や関心を持って物や事象、活動で望まれる育ちを把握し

北大阪

地域主権改革による市町村への権限移譲

―北大阪ブロック研修会
12月1日、帝国ホテル大阪で年末研修会と懇親会が開催されました。

研修会では、笹井信次氏（大阪府福祉部地域福祉推進室法人指導課長）が「地域主権改革による市町村への権限移譲について講演。

笹井氏は、地方分権の長所として、①地方、地域がそれぞれの実情にあった統治



笹井信次氏

て、造形活動が生まれる人的・物的環境を構成することの重要性を知りました。普段の保育活動から造形表現へと導けるように、日々の保育をもう一度見直し、子どもたちの造形表現の芽を育てていく努力と取り組みをしていきたいと思いました。

(玉川橋保育園M・U)

ができる、②中央政府が機能不全となった場合のバックアップができる」と指摘。地方分権の短所としては、①中央政府の権限が縮小されるため、国家全体の行動を起こす際には、より多くの調整が必要になる、②地方組織の規模が小さすぎると運営に支障をきたす可能性があると述べられました。

また、平成7年制定の「地方分権推進法」による中央政府の動向や大阪発「地方分権改革」ビジョンについて説明。大阪府では、このビジョンに基づき、平成22年度から3年間で、市町村への特例市なみ権限移譲を進めており、そこで現れた課題、市町村に対する大阪府の支援や連携、豊能・南河内・泉州北部で行われている広域連携による事務処理について言及されました。今、私たちが最も大切であると感じている内容だけに、参加者全員が熱心に聞き入っていました。

研修後の懇親会では、芦屋フルートプロムジカがフルートの生演奏を披露。有意義な時間を過ごしました。(きんもくせい保育園T・K)